

閉会集会

参加者発表

九州工業大学
富重 秀樹



はじめまして、九州工業大学の富重と申します。珍しい名前です。富が重なると書いて、富重と言います。なかなか周りにはいないと思いますので、よろしければ覚えていただければ幸いです。

教研集会はできるだけ毎回参加しています。私は今年から書記長を務めています。技術職員で、書記長を務めておりますが、最近思うことは、人とのつながりが薄くなってきたかなと。仕事柄もありますが、なかなか人と会わないことも多くあります。その中で、このような教研集会や裁判傍聴などへ行かせていただいて、人とのつながりが増えていくことを、改めて感じました。

こちらに福岡教育大学の西崎先生がいらっしゃいますが、私は全く仕事も職種も違いますが、裁判傍聴などに行かせていただいて、知り合いになったということがあります。こうした集会と言いますか、組合に入っているおかげで不思議なご縁もできると思いますので、今後もこうした組合活動、組合の意義というものを私なりに皆さんに伝えていくことができると、改めて思っています。とりとめのない感想で申し訳ないです。九州工業大学は福岡県にごぞいます。九州工業大学共々、今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。(拍手)

参加者発表

名古屋大学
森 純子



名古屋大学の森純子と申します。今回は非常勤部会で参加しました。名古屋大学の非常勤部会は、1つ1つの要求を長年し続けることで実現された項目がたくさんあり、歴史が保たれてきました。しかし、これからは契約に期限がある職員が非常勤部会を引き継いでいかなければいけません。まだ実現されていない要求を引き続きつなげていく活動をしていきたいと思っています。

私は教育発達科学研究科所属ですが、医学部や農学部等5学科の学生が共に学ぶにリーディングプログラムの事務補佐員をしています。プログラムの中で先生や学生たちとの海外実地研修に参加する中で、どのように研究課題を見つけ、準備し、調査し、発表し報告をまとめていくのか学んでいます。その姿はとても大変で、そしてとても楽しそうでした。学ぶことから離れている事務補佐員にとっては羨ましい姿です。もしも自分に研究の機会が与えられたら、全部やってみようという気持ちでいました。ですので、今回教研集会でこのような機会を与您に提供していただけてチャレンジすることができました。

私の学生時代はパソコンでレポートを書く時代ではありませんでしたので、A4レポート用紙のA野かB野かを選んでレポートを書いていました。朝まで何度も何度も書き直して、眠くなったから朝になったら清書をするという学生時代を思い出しました。リーディング大学院では時に理系の学生から、教育学部の提示する課題が重いと言われるのですが、パソコンに向かって10

枚程度のレポートを書くことは、それほど大変なことではないと感じました。パソコンは自分の書いたことをチェックしてくれ、漢字も、英語のスペルも直してくれます。これからは学生が課題に困っている姿を見ても「先生の言うとおりにやってください」と言えると思います。

また、私は理学部で2年間仕事をしてから教育学部に来ましたが、そのときに思ったのは「ああ、これが大学だ」と思いました。名古屋大学の理学部はもちろん素晴らしいです。本当に素晴らしいです。ただ、教育学部に来たときに、愛情深く、熱心で、活気があって、緊張感があって、小さな建物の中で行われていることは本当に素晴らしい、大学そのものだと思います。ですので、人文社会系が縮小されると聞いたときに、あり得ないだろうと思いました。

是非、名古屋大学に遊びにきてください。キャンパスツアーはお任せください！

C分科会の発表の際には温かく見守ってくださり、感謝しています。ありがとうございました。(拍手)



閉会集会

教研集会まとめ

全国大学教職員組合 中央執行副委員長

西崎 緑



皆さん、3日間お疲れ様でした。全大教中央執行副委員長の西崎です。全大教の役員としては、まだまだ若葉マークですが、どうぞよろしく願います。

第27回教職員研究集会の参加者の合計をお知らせいたします。46単組から88人の参加がありました。それに加え、1未加盟単組から1人、来賓、講師、他団体、報道関係者を合わせて7人。金沢大学教職員組合から26人、教研集会運営委員9人、新旧中央執行委員20人、全大教書記4人、合計で155人の参加がございました。どうも本当にありがとうございました。

この教研集会の開催に当たり、村井（全大教）中央執行副委員長をはじめ、金沢大学の皆さまに大変お世話になりました。このような立派な会場を提供していただき、また心温まる歓迎をいただき、ありがとうございました。

さて、3日間の教研集会を、大会テーマ「広がる格差・進む貧困化の中の高等教育の展望」に基づいて進めてまいりました。1日目の記念講演では、講師の小林先生から、詳細な資料をもとに、日本の高等教育の現状についてお話を伺いました。先生からはまた、政策提言をするときに、エビデンスを示していくことが重要な鍵になると教えていただきました。今回、先生が資料をもとに説明された、「進学自体を人生の選択肢に入れていない人が増加している」という事実は、非常に重く、国民の未来が奪われるという危機感を持ちました。改めて、私たち高等教育機関に勤務する教職員は、無償の奨学金の整備にも力を入れていく必要があると感じました。若者が希望をもって、学びたい時期に学ぶことができるような環境を整えるに、組合も、積極

的に取り組んでいく必要があると思いました。

各分科会では、さまざまな課題が共有されました。特に2013年度から2015年度にかけての「改革の加速期間」の中で、各大学・高専・研究機関は、大きな痛手を負ったことが浮き彫りになりました。例えば、改組につぐ改組で、大学のアカデミズムが破壊されてきていることや、内部の対立が生まれてきたこと、さらに教職員の待遇もそれに絡めて悪化してきたことがわかりました。

それから全国を見回してみると、地方の大学がこれまで担ってきた役割、すなわち地方の教育研究を担っていくという役割が奪われつつあることもわかってきました。このことにより、教育の機会均等を若者から奪っていくという状況が進行してことも課題として私たちは共有しました。

労働条件の話でいえば、クォーター制の導入や改組に伴って、任期制や年俸制が取り入れられたりすることが多く、教員や技術職員の労働条件の悪化につながっているという、全体の流れを私たちは把握できたのではないかと思います。

全部の分科会や部会に参加できたわけではありませんので、十分に把握できていないところもありますが、非常勤職員の部会、事務職員の部会、技術職員の部会、女性部会でも、それぞれの現場の状況が共有されたのではないかと思います。

今回の教研集会で特に気になったのは、こういった労働条件の悪化が、どうも若い人により強く出て来ている、ということです。今日もポストクの問題や、雇い止めの問題、契約職員の問題など、そういった不安定な待遇で雇用されている若い人に、大きなしわ寄せがきているという実態が語られました。こうした問題こそ、組合が地道に事実を積み上げて闘っていくことが必要です。そのような闘いをするときに、参考になるのが、首都大学東京の事例です。分科会で発表していただきましたが、日々の組合活動で諦めずに事実を積み重ねて交渉した結果、10年かけて任期制を廃止することができたということです。大きな抵抗活動も必要だけれども、私たちも単組の日々の闘

いの中で、事実を積み上げながら粘り強く交渉していくことが必要であると改めて思いました。

来年から始まる第三期では、運営費交付金を「メリハリのある」配分とすると決まっており、大学によっては大幅な減額という可能性もあります。そういう中で、組合が教育研究の条件を守っていくことに重点を置いた闘いをしなければ、大学・高専・研究機関の将来はなく、日本の未来もないのではないかと思います。

今回の教研集会では、安全保障関連政策に対する部会も開かれ、活発な議論が展開されました。これについては、中富（全大教）中央執行委員長にもうひと言語っていただきたいところですが、本日は所用で先に帰られたので残念です。安全保障関連政策への反対運動を通して私たち組合も、地域内の労働組合やさまざまな団体と連帯してきています。それは組合活動にとっても、一つの新たな展望に結び付くのではないのでしょうか。

私の出身単組の福岡教育大学では、11月1日に教育に関するシンポジウムを地元の方と一緒に開くことになっています。そういう形で地元労組や市民との交流を深めることによって、大学・高専・研究機関の組合活動も市民から見えるようにしていく必要があります。そして地域のさまざまな団体と連帯をしながら、一緒に考えていただく機会を作ることもできるのではないかと思います。

この教研に最後まで参加していただいた皆さまに本当に感謝いたします。教研の成果を各単組に持ち帰って、活用していただければと思います。そろそろ今年度の人勧に対応して、賃金・労働条件についての団体交渉が各単組で始まってまいります。その中で諦めずに、またエビデンスを示して事実を積み重ねながら、粘り強く交渉していきましょう。全国の仲間と一緒に交渉と闘いを展開できることが、この全大教の良さではないかと思います。皆さん一緒に頑張ってください。どうもありがとうございました。（拍手）

◇ 参加単組一覧、46 単組 155 人 ◇

北海道大学 1	富山大学 2	福岡教育大学 1
北海道教育大釧路 2	福井大学 6	九州工業大学 4
岩手大学 2	金沢大学 27	佐賀大学 4
秋田大学 1	静岡大学 1	大分大学 4
山形大学 1	岐阜大学 1	松江高専（※） 1
東北大学 2	三重大学 1	都城高専 1
福島大学 3	名古屋大学 7	
宇都宮大学 1	名古屋工業大学 2	【未加盟単組】
茨城大学（農） 1	愛知教育大学 1	横浜国立大学 1
高エネ研 2	京都大学 5	
群馬大学 1	和歌山大学 2	【取材・他団体・個人】
山梨大学 1	奈良教大附属 4	2
信州大学 2	大阪大学 3	
新潟大学 1	大阪府大教 2	【来賓・講演】
東京大学 7	神戸大学 2	5
天文台 1	岡山大学 2	
筑波大学 1	島根大学 1	【中執・書記】
電気通信大学 1	山口大学 3	24
東京海洋大学 1	香川大学 1	
首都大学東京 2	徳島大学 1	
	高知大学 1	

（※）運営または中執委員等のみ参加のため単組&人数に含んでおりません

教研集会レポート一覧（レポート集掲載分）

※全大教ホームページ(教研集会ポータルページ)よりダウンロード
してご覧頂けます 《http://zendaikyo.or.jp/?page_id=697》

A 分科会

【A1】「高等教育～大学・高等教育の転換点にあつて考え行動するために～」

- ・「学長のリーダーシップ」の強化と北海道教育大学の「ガバナンス改革」の現状
北海道教育大学釧路校 廣田 健
- ・「高等教育の転換点～私大教連が考え行動していること～」
日本私大教連書記局

【A2】「大学における教育実践の課題」

- ・『事務補佐員から見た文科省リーディングプログラム』
名古屋大学 森 純子
- ・岡山大学が導入する「60分クォーター制」の誤解と改善点
岡山大学 田中 秀和
- ・山口大学共通教育のクォーター制
山口大学 馬田哲次

【A4】「教職員の賃金・労働条件を守り向上させるたかいと団体交渉の進め方」

- ・貸借対照表で見る法人の支払い能力について
山形大学未払い賃金請求訴訟原告団長 品川 敦紀
- ・教員と対等な「教職協働」を考える
名古屋大学 佐々木 康俊

【A5】「男女共同参画—ワーク・ライフ・バランスを実現するために—」

- ・アンケート調査2015集計と分析
全大教女性部
- ・名古屋大学女性部会第4期活動報告
名古屋大学職員組合 女性部会

B 分科会

【B1】「組合の拡大と強化—大きく、強く、楽しい組合をめざして—」

- ・青年部の再出発 ～青年層の組合員拡大・成長のために～
名古屋大学職員組合 青年部

【B2】「教員の待遇・労働条件と教育研究環境」

- ・首都大学東京の教員人事制度—全員任期制をめぐる—
首都大学東京 佐古 輝人
- ・学域・学系問題について
京都大学職員組合 太田 耕司
- ・非常勤講師労働条件アンケート調査2015 報告
教員部 笹倉 万里子

【B4】「技術職員～昇格改善実現に向けて～」

- ・技術職員の4級の塊と5級不在に問題があり
電気通信大学 水谷 孝男
- ・技術専門員制度下での処遇改善の課題とこの間のとりくみ(その4)
名古屋大学職員組合
- ・全学組織化に向けた動向
九州工業大学 山本 克巳

【B5】「図書館職員」

- ・名大図書館職員の現状と縮小の動きに抗するために
名古屋大学職員組合 図書職員部会 石田 康博

【B8】「非常勤職員」

- ・有期雇用契約職員の待遇改善のとりくみ
首都大学東京 小林 喜平
- ・改正労働契約法 無期転換決定!
信州大学 岩切 未加
- ・『期限を迎える非常勤職員への対応と準備
～組合の働きや参加の重要性を発信しながら～』
名古屋大学職員組合 契約・パート職員部会
- ・京都大学の時間雇用職員問題と活動について
京都大学 末益 洋子

全大教第 27 回教職員研究集会スナップより



A4 分科会



A5 分科会



B4 分科会



B7 分科会



B8 分科会



C1 分科会



金沢大学教職員組合の皆さま☆ありがとうございました!!